

令和7年度第2回京都市市民参加推進フォーラム会議 摘録

【開催日時】

令和7年8月6日（水）午後5時30分～午後7時40分

【開催場所】

京都市役所本庁舎1階 第3会議室

【議 題】

- (1) 次期市民参加推進計画及び地域コミュニティ活性化ビジョン等（以下「次期計画・ビジョン」という）の作成について
- (2) 市民参加推進計画に係る市民意見を聴く場について

【出席者】

12名

（乾座長、白水副座長、並木副座長、荒木委員、今里委員、竹田委員、千葉委員、中嶋委員、西澤委員、平井委員、平野委員、水本委員）

※白水副座長、荒木委員、竹田委員、水本委員はオンライン参加

【議事内容】

1 開 会

（局長あいさつ）

2 議 題

(1) 次期市民参加推進計画及び地域コミュニティ活性化ビジョン等の作成について

ア 第1回会議で出された意見等の振り返り、地域コミュニティ活性化推進審議会での意見等の報告

＜事務局＞

（資料2に基づき説明）

＜乾座長＞

前回のフォーラム会議での4つの市民タイプに関する議論内容と、地域コミュニティ活性化推進審議会での議論内容を共有した。地域コミュニティ活性化推進審議会の委員は地域で活動されている方も多く、現場の活動に基づいた具体的な内容になっていると思う。

＜平井委員＞

前回フォーラム会議以降、「なぜ市民参加を推進する必要があるのか。」ということを考えているが、答えが見つからなかった。震災時の共助につながるなど、市民参加の本質がわからないから参加が進まないのではないか。ここでは市民参加の推進が前提となっているが、参加意欲のない人への問いかけとしては、性善説や上から目線になっていないだろうか。どこかでぜひ議論したい。また、市民参加の形態としても、自分の住んでいる地域以外で就業時間中に行うものや、京都での旅行中に行うものなどもある。

＜乾座長＞

震災などの有事の際の予防という意味でもつながりは重要だが、日常生活が忙しいと、そ

ういったことも考えられないことがアンケートにも出ているのではないか。そもそもなぜ市民参加が必要なのかということも含めて、本日は議論していきたい。また、市民参加の形態に関しても、アンケートは京都市民が対象なのであまり意見として出なかったが、就業時間中や旅行中に居住地以外の場所で行うものなど、交流人口も含めてどう進めるのかについても議論していきたい。

イ 次期計画・ビジョン（目指す姿、施策の方向性及び施策の推進例）に係る議論

<事務局>

（資料3に基づき説明）

<乾座長>

どのような考え方で次期計画・ビジョンを作っていくかを説明してもらった。

京都基本構想（案）で「すべての人に『居場所』と『出番』がある社会」という大きな方向性が示されているが、市民参加としての目指す姿を考えて答申としてまとめていきたい。その過程で、先ほどの平井委員のご指摘も検討したい。地方自治には「住民自治」と「団体自治」の2つの柱があるが、「住民自治」にあたるのが市民によるまちづくり活動、「団体自治」にあたるのが市政参加で、両者には重なり合うところがある。地域コミュニティ活性化推進審議会の議論は、まちづくり活動なので「住民自治」が中心になる。こちらのフォーラムでは、「団体自治」にあたる市政参加についても議論していく。

<並木委員>

地域コミュニティ活性化推進審議会でまとめられた「目指す方向性」は、次期計画・ビジョンの中でどこに位置付けられるのか。

<事務局>

市民参加推進フォーラムでの意見と合わせて、主に第4章の「市民のまちづくり活動」に反映していくものと考えている。

<並木委員>

本日の「目指す姿」の議論には、地域コミュニティ活性化推進審議会で示された「目指す方向性」の内容も含めるのか。

<事務局>

最終的には事務局で両者の議論を統合していくが、本日の議論でも意識してもらえると良い。

<今里委員>

資料17ページのピラミッドでいうと、「目指す姿」は地域コミュニティ活性化推進審議会の議論と合わせていくが、「施策」は個別に設定するという理解でよいのか。

<事務局>

「目指す姿」と「施策」の両方とも、本フォーラムと地域コミュニティ活性化推進審議会の両方の議論を統合していく。

<西澤委員>

現行計画では施策の評価に苦勞したが、「目指す姿」の達成に対する評価指標はいつ議論するのか。その議論は、地域コミュニティ活性化推進審議会で議論した部分も含めて行うのか。

<事務局>

昨年度のフォーラムの議論では、施策ごとに評価指標を設定するといった議論も出ていたが、今年度になって、ビジョンに統合することに伴い、全体としてアウトカム指標を設定できるかどうか専門家である座長、副座長にも相談しながら、フォーラムで議論できればと考えている。

<乾座長>

これまでは計画だったので、施策に対する評価が必要な構造だった。これから策定するのはビジョンなので、ここでは、あくまで施策の例として記載することになるので、政策の例に対して評価指標の設定は難しい。「目指す姿」をアウトカムとして、例えば、アンケートで調査することはできるかもしれない。

<今里委員>

「次期計画・ビジョン」は何を指しているのか。

<事務局>

市民参加推進計画と地域コミュニティ活性化ビジョン等を統合したものを指しており、暫定的に「次期計画・ビジョン」と表現している。今回の会議で、「ビジョン」とすることを確認できたため、次回からは「ビジョン」に表記を統一する。

なお、条例上も「ビジョン」として問題ない。

<乾座長>

グループディスカッションでは、モヤモヤも含めて話してもらいたい。フォーラムでの議論をふまえて事務局で整理していくので、この時点で「目指す姿」や「施策」を文章として整える必要はない。

グループ対話①：次期計画・ビジョンの「目指す姿」に盛り込みたい内容は。

（2グループに分かれて議論を行った後、全体で共有）

<Aグループからの全体共有>

メンバー：白水副座長、荒木委員、竹田委員、千葉委員、中嶋委員、水本委員（※白水副座長、荒木委員、竹田委員、水本委員はオンライン参加）

- ・ 「居場所」と「出番」や「関係人口」というキーワードが重要ということと、市民と観光客のような「分断」にならない方向性に向かいたいという意見があがった。

<Bグループからの全体共有>

メンバー：並木副座長、今里委員、西澤委員、平井委員、平野委員

- ・ 市民参加の必要性から議論をスタートし、「繋ぎ手」や「やりがい」といったキーワードがあがった。短期的な市民参加はワクワクするものにして、長期的には震災に備えるような活動も重要。

グループ対話②：グループ対話①で話した「目指す姿」を実現するためにはどのような「施

策」が必要か。

（２グループに分かれて議論を行った後、全体で共有）

＜Ａグループからの全体共有＞

メンバー：白水副座長、荒木委員、今里委員、竹田委員、西澤委員、水本委員（※白水副座長、荒木委員、竹田委員、水本委員はオンライン参加）

- ・ まずは「分断」について話した。場所が違うからこそその分断や、目的が違うからこそその分断がある。
- ・ 次に、地域活動にどう関わってもらうかについて話した。「繋ぎ手」が必要という議論があった。また、多様な立場の人がいるからこそ「繋ぎ手」が必要だし、時として分断が起きる。多様な人が立場を入れ替えて体験してみるような取組のアイデアも出た。

＜Ｂグループからの全体共有＞

メンバー：並木副座長、千葉委員、中嶋委員、平井委員、平野委員

- ・ 住んでいる地域だけでなく、働いている地域や学校のある地域で活動に参加するのもいいのではないか。日中は会社や学校で過ごす時間の方が長い。他には「ゲーム感覚」でできる取組のアイデアも出た。まちづくり活動に参加してポイントが貯まると、ソフトクリームが１巻き多くもらえるなど。「ウェルビーイングなまち」や、「すべての人に『居場所』や『出番』がある社会」は、少し上から目線の印象もある。地域の人たちとも「目指す姿」を作り上げていけるといいのではないか。
- ・ 企業や学校でまちづくり活動に参加して良さを知ると、自分の住んでいる地域に帰ってもやるのではないかな。やりがいを「体験」してもらう機会は重要ではないかな。

全体対話：次期計画・ビジョンで、どのような「目指す姿」や「施策」を示せるとよいか。

＜平井委員＞

市民参加の必要性に関して、モヤモヤしている人には、まずは「体験」してもらうことが重要であり、どこでその体験をしてもらうか。施策に関しては、観光の取組の中で京都ファンクラブを作ろうとしているが、その活動のひとつにまちづくり参加があってもいいのではないかな。市役所の所管部署は横断することになるが、「関係人口」に対するまちづくり活動への参加施策としてどうか。

＜平野委員＞

企業や学校がある地域で、まちづくり活動を経験するのは良いと思った。企業にとっては、CSR活動にもつながる。まずはみんなが実体験をするのが重要だろう。

＜乾座長＞

町内会活動に企業や学生が入るといいと思うが、なかなか進んでいない。自分の周りでも、大学生が地元の運動会に参加したら、地元の人が大喜びしていた。大学によっては、複数の町内会にまたがっているところもあるが、地域があるから学生も安心して学校に通えている側面もあるので、良い取組である。

<荒木委員>

色々話せたので、事務局にうまくまとめてもらうのを期待している。

<竹田委員>

ネガティブな課題解決よりも、楽しくポジティブな関わり方というのがポイントになるのではないかな。

<水本委員>

個を大事にする風潮とスマホの普及によって、スマホより楽しくないと面倒くさがって地域活動にも参加しないだろう。ひとりで家でスマホを触っているよりも楽しいことを伝えたい。

<中嶋委員>

このようなビジョンがあることを知らない人も多い。市民一人ひとりに届けるような情報発信を考えていきたい。

<乾座長>

前回の市民アンケートでも、市民しんぶんは機能していたという結果であった

<水本委員>

京都市からの情報発信として、現在公式SNSであるFacebookとXとLINE以外にも、Instagramを取り入れると若い人が見るのではないかな。

<白水副座長>

京都に集う多様な主体がいるが、その人たちが出会えるスクランブル交差点のような場所が必要ではないかな。区Hubとも関連すると思うが、ちょっとすれ違うくらいで気軽に関わりあえる場があるといいのではないかな。リアルだけでなく、SNSなどでもあるといい。

<西澤委員>

防災などの観点で市民参加は必要なのだが、ネガティブな印象や義務感を感じる。ビジョンでは、やったら楽しくなるという方向性にしたい。

<今里委員>

関わり合いが大事というのは共通認識。それをどうすれば作っていけるのか。色々な段階があるが、最初は楽しく関わり、そこから大きな課題解決に向かっていけるといいのではないかな。楽しみながらできることから始めて、まずはやる・体験してみる。違う立場を経験すると「分断」を超えてつながっていけるのではないかな。「繋ぎ手」も両方のグループでキーワードとして出たが、色々な人がいるからこそ間で翻訳する人が必要になる。

<千葉委員>

年寄りから説教されると思うと参加したくなくなる。大学でも、つながりが大事とっている年配の先生が、若い世代のつながる手段であるTikTokを知らなかったりする。ジェネレーションギャップは存在するが、若い世代と上の世代がお互いの知っていることを共有しあって、ギャップを埋めることができないかな。一方で、地域に出るように言うだけでなく、怒られた時に駆け込めるような守られる場所も必要ではないかな。

<並木副座長>

今日の一番の発見は、働いている場所での活動をきっかけとして市民参加につながるという観点。昨年のフォーラムで「市民参加のはしご」に関する議論があり、企業との協働は「挑戦する」に位置付けられていたが、市民参加のきっかけにも位置付けられるのではないかな。

一方で、今日は都市部の議論に集中してしまった。京都市内にも、京北など人口減少で縮小しているエリアもあり、そこでの市民参加はどうなっていくのか。そういう地域もある中で、どのように市民参加をデザインしていくのかも考えたい。

(2) 市民参加推進計画に係る市民意見を聴く場について

<事務局>

(資料4に基づき説明)

<乾座長>

本日の議論をふまえて、事務局で「目指す姿」と「施策」をまとめる。次回のフォーラムでは、事務局案を受けた議論の後に、市民対話会議と連携した市民意見を聴く場を開催する。

そこで、参加者の市民の方々にも意見をもらい、もう一度フォーラムとしてビジョンに関する議論を行なっていく。参加者同士の交流会には、フォーラム委員も参加するのか。

<事務局>

途中までの参加となるが、フォーラム委員にも交流会に参加してもらう想定でいる。

<平井委員>

第1部の参加はフォーラム委員だけか。市民意見を聴く場の参加者は、フォーラムでの議論を知らない状態なのか。

<事務局>

その通りである。市民意見を聴く場では、どちらかというと参加者がまちづくり活動をする中での課題ややりたいことなどを話してもらいたい。

<平井委員>

フィッシュボウルはいくつあるのか。参加者は何人くらいなのか。参加者数が多いと話せない人もでるのではないか。

<乾座長>

フィッシュボウル自体は1つ。

<事務局>

フィッシュボウルでは、誰でも対話に参加できるように空席を用意している。また、フィッシュボウルの後に、自由に話せる交流会も設けている。

<平井委員>

フォーラム委員はあまりフィッシュボウルで話しすぎない方がいいかもしれない。どちらかというと聴かせてもらう方がよさそう。

<並木副座長>

テーマごとの意見を書いて貼るなどをやってもいいかもしれない。

<平井委員>

参加者が自分の意見を言えずに、フラストレーションがたまることを避けたい。市民意見を聴く場の参加者は、今後ビジョンに賛同して協働してもらう人たちになるので。

<事務局>

発言してもらうことも大事だが、市長も含めて聴いてもらうことも大事だと思う。その後の交流も含めてつながりを作っていきたい。

<平井委員>

まちづくり活動をする人には、発言したい人が多い印象がある。発言できなかった人のフォローアップはちゃんとしないといけない。

<乾座長>

リアルタイムでコメントをスクリーンに表示したり、途中で投票してもらったり、参加度を高める方法を考えるといいだろう。

<平井委員>

ファシリテーターは誰がやるのか。

<事務局>

ファシリテーションの専門家に依頼している。

<今里委員>

フィッシュボウルの中心の円は何人くらいになるのか。

<事務局>

5人前後を想定している。

<乾座長>

フィッシュボウルの対話のテーマに関する提案はあるか。

<白水副座長>

今まで市民参加に関われなかった層や次世代、外国人旅行者などが思わず関わってしまうようなアイデアについて聞くといいのではないか。

3 閉会

<事務局>

今回は、市民意見を聴く場とフォーラムを合わせて開催する。日程は10月で調整しており、決まり次第連絡する。また、今日の議論をもとに事務局で「目指す姿」と「施策」の叩き台を作成する。次回フォーラムまでは少し時間があくので、8月末時点の叩き台をお送りして、事前にメールベースでご意見をいただきたい。

(異論なし)

以上で本日の第2回会議を終了する。

以上